

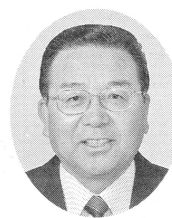
宮私幼PTAだより

第85号

発行 者 会
宮私幼PTA連合会
(会長 渥美 巖)

編集 委員 会
広報 事務局

仙台市青葉区国分町三丁目6-12 佐正第二ビル6F
電話 (022) 263-7040 番



『子ども・子育て支援新制度』 私立幼稚園に 十分な説明を！

会長 渥 美 巖

弥生三月、卒園児と保護者の皆様ご卒園おめでとうございます。四月からは義務教育がスタートいたしますが、私立幼稚園で学んだことを基礎に小学校でも『よく遊び・よく学ぶ』元気で小学校に通ってほしいと思います。

今年四月から施行される『子ども・子育て支援新制度』は、子ども・保護者の置かれている環境に応じ、保護者のニーズ等に基づき幼稚園・保育所・認定子ども園等の特性を生かした良質かつ適切な教育・保育、子育て支援を総合的に提供する体制を整備することを目的にしておりますが、これまで私立幼稚園と関わりの少なかった市町村が実施主体となることへの財源的な不安や、私立幼稚園が建学の精神に基づき特色ある教育活動を行ってきたことに對する、評価や議論が少なかつたと思います。国においては、県内の私立幼稚園が一割程度しか新制度に移行し

ていない現状を直視し、実態調査と話し合いを重ね、制度改正や見直しも考えるべきだと思います。一方、私達PTA連合会としては消費税増税の歳出対案である『幼稚園無償化』に向け、国の動向を見極めながら、強力な運動を展開していくべきであります。

さて、日本全体としての人口減少が問題となっており、宮城県でも二三四万人から三十年後には、一九七万人に減少するとの将来推計値が示され、山間部や沿岸市町の減少率が高く、具体的な対策が急がれている中で、国においては地方の人口減少問題を最重要課題とした、『地方創生』政策を新たに打ち出しており、地方のやる気と、その成果が期待されます。宮私幼PTA連合会としては、来年度も『子ども達にとって最善の保育環境』を目指し、全力で活動して参りますので、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。



全国大会に参加して

副会長 横 澤 行 夫

お人形社幼稚園(T)

全日本私立幼稚園PTA連合会全国大会が、九月三日東京・ホテルオークラで「次代を担う子どものために」家族の絆に心ゆたかな子」を大会スローガンに開催されました。

河村建夫会長(衆議院議員)は開会のあいさつの中で、「来年度予算の概算要求では、幼児教育だけでも五百億円を超える予算要求をしている。幼児教育の振興にあらゆる視点から取り組んでいかねばならない」と述べた。

この日は内閣改造人事発表のため欠席となった安倍晋三総理のた



祝辞を下村博文科学大臣が代読。「特に幼児期の教育は生涯にわたる人格形成の基礎を培う大切なもの。質の高い教育・保育を保障することは極めて重要だ。幼児教育の無償化や、五歳児の義務教育化は、わが国の教育制度を大きく転換するものである。子どもの発達早期化、社会・経済の変化に対応した質の高い幼児教育を全ての子どもたちに保障できるよう取り組んでいく」と述べた。

続けて下村大臣自身の祝辞として「安倍総理の祝辞の中で、五歳児の義務教育化という言葉がありましたが、私としては平成三十二年を目標設定として、それまでに幼児教育の無償化を達成していきたい。同時に子ども・子育て支援新制度は、まだ財源が確保されている状況ではない。幼児教育の無償化を達成するためには、時間がかる。」と話した。森喜朗・元総理も出席し、「大事なことは子どもを預かることではなくて、子どもを教育することだ。社会人になるの一番大事な教育は幼児教育だ。だから教育の無償化の方向に努力している」とあいさつした。

この後、保護者代表が大会宣言を読み上げ、採択された。

大会閉会後は引き続き記念講演が行われ、講演予定だった下村大臣に代わり、山中伸一文学部科学事務次官が「日本のこれからの教育ビジョン」と題して講演。「今後日本が成長していくためには、教育に投資して、一人一人の力を伸ばすこと、保護者の負担を減らして子どもの数を増やして急激な人口減少を少しでも緩やかにすることが重要だ」と話した。

お知らせ

平成二十七年行事予定

平成二十七年年度

宮私幼PTA総会

期日 平成二十七年六月二日月

会場 仙台市民会館小ホール

宮私幼教育振興大会並びに

宮私幼PTA研修大会

期日 平成二十七年六月二十九日月

会場 東京エレクトロンホール宮城

宮私幼PTA

親睦バレーボール大会

期日 平成二十七年十月二十日(火)

会場 グランディ21

第三十九回親善バレーボール大会に

参加して



もみじが丘幼稚園 (P)

佐藤 麻季

去る十月二十一日、第三十九回

宮私幼PTA親善バレーボール大会が、利府町のセキスイハイムスーパーアリーナを会場とし、盛大に開催されました。

今年は、県内各地より六十七チームが参加し、六コートに分かれ各ブロックの予選を勝ちぬぎ、それぞれのコートでの優勝目指して戦いました。広い会場ですが、選手のみならず、駆けつけたPTA役員の方や、先生方、沢山の方々の熱い応援、また園児たちの可愛い声援で温かい熱気に包まれ

ておりました。

私は今回、選手としてこの大会に参加いたしました。三度目の参加となりますが、今大会では僅差で決勝まで進むことができ、見事優勝という素晴らしい結果に、仲間達と喜び合うことができました。大会の結果は様々だったと思いますが、幼稚園バレーは勝つことだけがすべてではないと思います。年齢も経験も様々な人達が集まりお互いを理解し、助け合いながらプレーを楽しむ。それが幼稚園バレーの醍醐味だと私は思っています。

どのチームも、毎日の家事や子育てとの両立で、思うように練習できないのが現状かと思いが皆で悩み、助け合って、試合に向けて気持ちを高めています。スポーツの経験がなかった私が、まさか母親になってから、こんなに楽しく笑ったり、嬉しくて泣いたり悔しくて悩んだり、こんなに貴重な経験ができるとは思ってもみませんでした。そして何より最高の仲間達と出会えたことは私の一生の宝物になることでしょう。

私の小学生の娘達も、最近地元のスポート少年団でバレーボール



を始めました。娘達にもぜひ色々な経験をを通して、遅く成長してほしいです。そして、いつか一緒にバレーできることを楽しみにしたいと思っています。

最後に、今大会の開催にあたり、ご尽力頂きました宮私幼連合会並びに運営にご協力賜りました審判団、役員の皆様方にこの場をお借りして感謝申し上げます。

第三十九回親善バレーボール大会

入賞チーム

ブロック	優勝チーム	準優勝チーム
A	成田中央	すがわら
B	八幡花園	めるへの森
C	やまびこ	多賀城高崎
D	くり	岩沼南こぼと
E	柏	富沢
F	もみじが丘	中田

結果の詳細は、宮私幼PTA HPをご覧ください。

知事陳情と

今後の課題

副会長 稲富 将夫

新しい年を迎え会員の皆様には益々ご健勝にお過ごしのことと存じます。平成二十六年度も残り少なくなりましたが、今年は子ども・子育て支援新制度の施行に対しての会議が数多くもたれ、関連三法案に対する新制度への移行や施設型認定子ども園など、今後の施設経営の方針などについて課題が多く、現場の私立幼稚園としては未だ実態が十分把握出来ていない未消化状況で終ってしまいそうです。

さて本年度の知事陳情については、新年の一月十三日宮城県庁特別会議室に於いて、村井知事の新年表敬と平成二十七年度の宮城県私立幼稚園に対する運営費補助の増額に関する陳情書を提出させていただきました。当日は宮私幼連合会から村山理事長、他副理事長、宮私幼P連合会から渥美会長、中島、横澤、稲富副会長、寺沢常任委員長、佐々木、小野、小山常任



受賞

おめでとうございます

鎌田文恵先生 (茂庭幼稚園・)

おたまや幼稚園理事長・園長)

春の叙勲で、瑞宝双光章を受賞されました。鎌田先生は、宮私幼連合会の副理事長・仙私幼連合会の会長として、今後の私立幼稚園指針等について、的確なるご指導をいただいております。

遠藤弥一郎先生

(みやの森幼稚園理事長・園長)

教育文化に功績があり、宮城県知事より秋に表彰されました。

先生は、自然に恵まれた広大な土地に幼稚園を移転し、今日の園を発展させました。宮私幼連合会の理事として、若手経営者の意見を反映させてきました。

(文責 横澤)

地区活動報告

平成二十六年年度

登米地区PTA研修大会

子ども達の笑い声と

響く和太鼓の音

登米幼稚園 (P)

尾形 ゆかり



平成二十
六年七月十
三日登米市
迫体育館に
て宮城県私
立幼稚園PTA連合会登米地区研
修会が開催されました。

「親子で和太鼓をたたいてみよう！」をテーマに、「築館薬師太鼓奉賛会」の皆さんに来ていただき、親子対象の和太鼓ワークショップを開催していただきました。当園のお子様のお母様も在籍されているそうで、色々とご協力いただき、大変助かりました。ありがとうございます。

築館薬師太鼓奉賛会は設立二十八年目を迎える、打ち手、スタッフ合わせて三十三名の団体です。平成八年に「宮城県知事宮城地域づくり大賞」を受賞、十七年には「地域づくり功労」など表彰され、栗原市を中心に多くのイベントで活躍しています。

今回ワークショップという形で活動するのは初めてだそうです。パネルに貼られた打ち方は、子ど

も達でもわかりやすく「ドン」「コン」「コドン」何回かきいていると頭の中に入ってくるので不思議です。

三園合同の親睦研修会ですが、太鼓の数に限りがあるので、抽選で参加を決めた園もあるようです。子ども達に太鼓は大人気なんです。当日の天気は雨模様、大変蒸し暑い日でした。子ども達の体調面も考慮して、水分補給をこまめに取り、親子交互に打ち始めていきます。登米地区では、太鼓に馴れ親しんでいるお友達が多いんですね。お祭りなどで、地元で始めているお友達もいるようです。

子ども達は代表が教える「ドン」「コン」「コドン」に合わせて、太鼓をたたき続けます。くり返し、くり返し何度も打ち続け「ドン」「コン」「コドン」「コン」合わせて打てるようになっていきます。ほんと不思議ですね。娘は普段、できない事があると弱音をほさながら、あきらめてやめようとしています。でも瞳をかがやかせて合わせて打ち続ける娘を見て、親の私はびつくりです。どのお友達も、ギャラリに水分を補給しに行き、すばやく太鼓の前に戻り、誰もへたりこんだり、あきてしまう事なく、太鼓を打ち続けています。感動です。タオルが汗でびっしょりになりながら、たくさんの笑顔と真剣な顔を見ながら、本当にこの

研修会を開催してよかったと思いました。

その間、薬師太鼓奉賛会の皆さんはノンストップ休憩なしです。皆さんのパワーに脱帽です。最後は奉賛会の演奏を見せていただきました。圧巻です。笑顔や真剣な顔つきのお友達も、演奏の迫力で前のめりで見ています。体育館に響き渡る太鼓の音を堪能しました。国際色豊かな奉賛会の皆さん、カナダ、アメリカ、三名の海外の方がいらつしやいます。最後はハイタッチなどして楽しい、そして感動の研修会を終えました。今回ご協力いただいた薬師太鼓奉賛会の皆様、参加していただいた、あさひ幼稚園、さくら幼稚園の皆様、この場をお借りして深く感謝と御礼を申し上げます。



平成二十六年年度

塩釜地区PTA研修大会

「おこづかい教育出前教室」

汐見台幼稚園 (P)

大橋 智 江



本年度の
塩釜地区PTA研修会
は平成二十
六年十月二

十九日に七ヶ浜国際村大ホールにおいて開催され、七十四名の方々に参加いただきました。

講師としてファイナンシャルプランナーである中野俊一氏をお迎えし、「おこづかいの適切な与え方」についての講話をいただきました。特に印象的だったのは、『子どものころの適切なおこづかいの習慣は、しつけの一つであり、大人になった時の金銭感覚を左右する』ということ。参加者アンケートの中にも、「これからの子育てに非常に役立つ内容であった」、「ぜひ、家庭で取り組んでみたい」という声をたくさんいただきました。また、私も含めて、お母さん自身の金銭管理を見直す良いきっかけともなったようでした。

研修会に参加し、親自身が手本を見せること、方針をしつかりと定め、家族でふれずに子どもに接することが大切であると学びました。おこづかい一つですが、自分で考えさせること、失敗させて学ばせること、ほめること、我慢をさせることを通じて子どもをしつけ、そしてその結果として、子は



親の鏡になるということで、今まで漠然としか考えていなかったことに一つの道筋ができ、たいへん身の引き締まる思いがしました。おこづかい教育は遅くとも小学校低学年で始めるのが良いとされています。子どもがちょうど幼稚園に通っている今、私たち親がおこづかいについての知識を得たことで、適切な時期に効果的におこづかいを与えることができるのだと思います。今回学んだことをぜひ家庭でも実践し、成果を上げることができればと思います。

講座の前後にはマリンバ・ピアノ演奏会も設けました。講座とはまた違った雰囲気の中、マリンバとピアノのやさしい音色が、普段忙しくされている保護者の方々にゆったりとした時間を与えてくれたようでした。また、楽器演奏体験の時間もあり、会場は笑顔であふれ、講座と演奏会で約二時間半の研修会でしたが、有意義であつという間に過ぎた時間でした。最後に、本研修会開催にあたりご尽力いただきました皆様に感謝申し上げます。ありがとうございます。

会員のひろば

親父として「聞く」ことの大切さ

富沢幼稚園 (P)

佐々木 幸士



「パパ」今日仕事終わり。もう仕事いらないの？と早い時間に自宅に帰ると幼稚園の年中に通う次男から、かけられる言葉であります。嬉しくもあり、息子達と向き合う時間が少ない自らを考えさせられる言葉でもあります。

仕事柄、土日仕事が多く、家族団欒のひと時を過ごすことが少ないのが現状です。朝だけは思い、家族での朝食をとる時間を大切にしております。妻が作ってくれた朝食の時間に幼稚園生活や諸行事を通じての楽しかったことや先生やお友達のこと等々、三月生まれの次男で幼稚園に通う不安を感じていたことを忘れさせてくれる成長の早さを知る機会であり、今ではすっかり口の達者な次男の言葉を聞く楽しい時間でもあります。

先生の言葉やお友達の影響で自分から新しいことに興味を持つようになり、自分の力で解決し、達成感を得ることができるよう喜びを知った得意げな次男の姿は富沢幼稚園全ての皆様のおかげであります。

本当にありがとうございます。

今後も息子の気持ちに寄り添い「聞く」ことを大切に子育てに励んで参ります。

「早く」をやめよう

わかくさ幼稚園 (P)

齋藤 香織



皆さんがお子さんに掛ける言葉で、一番多いものは何ですか？私が年中の娘に言っていたのは、「早く」でした。

朝の仕度から夜眠るまで、数えきれない程に繰り返す繰り返し、早く早く!!と言っている自分に気づき、愕然としました。

早くして欲しいのは、私の都合なのではないだろうか。時間が決まっている時でも、もつと余裕を持って始めていけば良いのではないか。そもそも、子どもは大人の様な時間の感覚が備わっていないはずなのに、なんて難題を押し付けていたのか。落ち着いて考えてみればすぐに気付く様な事なのに、終らせる事にばかり気を取られて日々を急ぎ足に過ごしていたのです。

「早く」をやめよう、何をするにも途中も楽しめる様に工夫しよう。出来た時には褒める事も忘れない様にしよう。そう意識して接すると、娘の態度も以前とは大きく変わりました。いつも笑顔で楽しく育児をしています。とはまだ言えませんが、子どもに掛ける一番多い言葉が「やったね」に変わったと胸を張りたいたいと思います。

再認識

石巻カトリック幼稚園 (P)

阿部 貴代



平穏にトラブルもなく元気に通園していた年長の娘が

ある日突然「行きたくない」と言って不安顔。えづく程の大泣きで私も困惑。異常事態発生だと園に連絡をしました。

お迎えの時間になり、心配していた私に駆け寄る娘はいつもの笑顔。ホッとしたのと同時に先生が来て話し始めました。

原因はとも些細な事でしたが、先生はその些細な事を見つけたすまでに、職員同士の話し合い、相談観察など沢山の労力を使い全力で見つけてくれたのです。そして大人には些細な事でも娘には大きな傷となってしまうと二緒に悲しんでくれました。娘の心に寄り添い取り組んで下さった事にとっても感謝致しました。

多種多様な個性を見せ、発揮する沢山の園児を理解し、健やかに導き共にいる。仕事という枠を超えた教育者としての姿を再認識したのです。

親と子の関係に甘んじた私では些細な事など見つけられず、娘の心の大きな傷を癒す事はできなかったでしょう。

清らかな心を持った先生方がそばにいてという事を皆さんも再認識しては如何ですか？

子育てを楽しみたい

葦の芽星谷幼稚園 (P)

吉田 亨



子どもキャンプの指導経験があるから、子どもと遊ぶのは得意だと思っていました。ところが我が息子、しかも三人の子育てでは、想像をはるかに超えるもの。育児に追われる妻にかわり、出来る限り協力しようとPTA会長を拝命しました。私自身、楽しくなければ五分と座ってられないと子どもの頃に言われていた程でしたから、様々な行事やイベントが沢山ある当園の方針に共感しています。歌やお遊戯会、市内唯一の屋内プールがあり、体を動かしながら、楽しみながら子どもが興味を持つやり方で教育するのは理にかなっていると思います。大人も子どもも、自分の興味ある事には時間を忘れて熱中するもの。子どもの遊びを見ていても、何がそんなに楽しいのかと思うような遊びを飽きずにやっています。そんな遊びの中に本当に好きなものを見つけて楽しく遊ぶ。きつとそんなひとつひとつが、いつかこの子の人格を形成するんだと、子どもの寝顔を見ていると、昼間の騒々しさも愛おしく感じられたりします。そんなふうに悩みながら癒されながら、もう少し子育てを楽しみたいと思うのです。

あとがき

穏やかな春風とともに、宮私幼PTAだよりを皆さまにお届けできましたこと、ご寄稿いただきました皆さまには厚く御礼申し上げます。今から一年前、思いがけず広報部長という大役を仰せつかり、初めてのことに戸惑うことばかりでしたが、経験豊かな先生方、各幼稚園の役員の皆さまに助けられ、無事に務めることができました。この三月に長男が卒園し、次男の入園までは私も一旦、PTA活動を卒園となりませんが、来年度の活動の更なる充実を願い微力ではございますが、今後もエールを送り続けたいと思います。

(広報部長 日野雅敏)

平成二十六年度 編集委員

副会長 稲富 将夫(矢本はなぶ)
副会長 横澤 行夫(お人形社)
事務局長 小野 暢彦(清水)
広報部長 日野 雅俊(石巻カトリック)
広報副部長 佐々木拓真(エコーライト)
広報副部長 友川 栄(登米)
広報委員 浅野 大輝(中新田)
広報委員 岩岡 明子(中新田)
広報委員 遠藤ひとみ(浄心)
広報委員 我妻奈緒美(浄心)
広報委員 尾形ゆかり(登米)
広報委員 赤坂 典子(聖マリアス)